

志賀原発を 廃炉に! 原告団ニュース 第31号

原告団事務局 〒920-0024 金沢市西念3-3-5 フレンドパーク石川5F TEL (076) 261-4657、FAX 233-2244

なぜ今、避難計画なのか

原告団長 北野 進

水戸地裁は今年3月、東海第二原発には実効性ある避難計画がなく人権権侵害の具体的危険があるとして、運転差止め

を命じました。危険な原発と相いれない住民の安全確保、この矛盾が凝縮した自治体の避難計画に司法として初めて切り込んだ画期的判決でした。

かつて国や電力会社は「原発は多重防護で安全」、「五重の壁があるから放射能は漏れない」と説明してきました。志賀原発もまやかしの安全を大前提に、ときには大雪で交通麻痺となる能登であっても避難の心配は無用とされ、半島先端が孤立する懸念も無視されてきました。

安全神話を崩壊させた福島第一原発事故を避難計画の観点から教訓化するなら、「こんなところに原発があっていいのか」と真っ先に問わなければなりません。ところが事故後に発足した原子力規制委員会は、原発の安全は保証しない、重大事故は起こり得る、放射性物質の大量放出もあり得ると開き直り、30km圏内住民の避難計画の作成を自治体に求めました。本来撤去すべき原発を居座らせ、住民に被曝を強いる許しがたい避難計画です。

石川県が計画を検証するとして毎年実施する原子力防災訓練に対し、私たちは従来から監視行動に取り組み、問題点を指摘してきました。再稼働への動きが強まる中、水戸地裁判決に学び、避難計画からも再稼働を阻止する、そんな取り組みを強化していきたいと思えます。

志賀町からの報告—原発防災を中心にして

原告・志賀町議 堂下 健一



2011年3月の福島第一原発事故以降、それまで起きないこととされてきた原発事故は、起きることを前提として事故時の備えをしていく方向へ大きく変化しました。そこで、原発防災は果して万全なのか、志賀町の現状に照らし合わせて検討してみたいと思えます。

原発立地自治体に生活する者にとって、再稼働をさせないことはもちろんですが、そこにある原発に対する備え・原発防災を意識した取り組みも求められます。この問題は、原発再稼働となると被害から逃れられない周辺自治体とも共有できる課題です。周辺各自治体でも、

【富山訴訟第8回口頭弁論】

- ◇期日 12月13日(月)午後3時～
- ◇会場 富山地裁⇒富山弁護士会館(報告集会)

【金沢訴訟第32回口頭弁論】

- ◇期日 12月23日(木)午後3時15分～
- ◇会場 金沢地裁⇒北陸会館(報告集会)

県や志賀町に準じた原発防災計画を策定していますが、それが事故時に有効に活用されるかどうかは全く別問題です。また事故が起り得るという前提で防災計画を策定し、原発を稼働しなければ電力需給が逼迫する^{ひっばく}のか、という点についても改めて検討が必要かと思えます。

福島原発事故後、町内の既存の施設に放射能防護施設が整備されたり、新設されたりしています。全額国庫負担でなされていますが、緊急事態には必ずしも対応できる施設とはなっていない個所も見受けられます。これらは福島原発事故時に高齢者施設や病院の入院患者の避難で福祉車両が間に合わず、バスで避難して多くの犠牲者を出した反省から整備したものです。例えば、志賀町文化ホールでは上階に避難施設が整備されましたが、地震ともなると電気系統がまず止まることを指摘した建設業を営む議員がいました。これに対しては、エレベーターが止まったら職員2人で避難者を上の階に抱えて行くという回答で、聞いた議員もあきれた次第です。数人の避難者ならまだしも、介護を必要とする多くの人の避難が予測される中では、思わぬ人力が割かれます。事故時の混乱と予想外の事態を考慮すれば、一階に整備すべきであったのです。

私もこれまでに議員として原発防災訓練を視察したり、地域住民として避難訓練にも参加し、実際バスで能登町へ避難したこともあります。そこでも、事故時に指定された避難場所ではなく、訓練しやすい別の場所が設定されていたこともありました。また、途中能登空港でスクリーニング検査を受けましたが、おざなりな印象しかありません。

これまでの避難訓練は県知事の日程を配慮して決められていますが、事故は知事の都合で起るものではありません。実際の事故状況を想定し四季を通じて実行しておけば、冬季は雪道走行の難しさに加え、船舶やヘリを使った避難はまず不可能ということもわかるはずで、とくに能登地区が避難先に指定されている自治体では、雪道を避難してくるバスや家用車の駐車スペースの確保（除雪）まで考慮しておくべきなのです。さらに避難に要する時間が予想以上にかかることも必然です。今年の訓練でも陸上自衛隊のヘリは飛ばせず、船も出せず、かろうじて航空自衛隊のヘリが強風の合間を縫って飛来し、4名の避難者を載せて飛び立った（写真）だけでした。冬期間はヘリや船舶での避難はあくまでも補助的な手段であり、メインはバスか家用車で避難しかありません。だが、今回の避難訓練でもプランBが全く準備されておら



自衛隊のヘリに乗り込む住民(11/24北國新聞より)

ず、これでは訓練にならないと指摘する議員もいたくらいです。

さらに、風向きと同じ方向となる能登町への避難の問題も指摘しておかなければなりません。行き止まりとなる所に避難場所を設定すること自体が間違っています。

また、コロナ禍の避難ということで新たな問題となったのは、三密を避ける必要性から避難所のスペースの問題と避難バスの台数を増やさざるを得ない難題に直面しており、解決は不可能としか思えません。アメリカのショーラム原発廃炉の例を見るまでもなく、絵に描いた餅でし

かない避難計画では、原発再稼働はもっての外です。

北陸電力は公益企業といいながらも、そもそも私企業の利益追求のために地域住民は元より、多くの県民が犠牲になってもよいのでしょうか。たとえ避難できたとしても、それまでの諸環境が維持されることはあり得ず、福島原発事故後の10年がそのことを証明しています。

北陸電力にとって、志賀原発を廃炉にすることが一番の地域貢献といえます。



原発事故・避難指示が出た！どうする??

原告 浅田 正文（福島県から避難）

11月23日に志賀原発防災訓練があった。3.11で体験したことを振り返ってみたい。絶対安全とされていた原発で万が一のことが起こり、私の地域にも避難指示が出された。本当に慌てた避難行動しかできず、恥ずかしい。

防災無線が「避難指示！」を繰り返している。あなたならどうしますか？

《考えるに当たり…》

1. 防災無線の「避難指示」放送

3月12日夜8時半、行政防災無線の放送（「避難指示！9時に小学校前から避難バス」？聞き取れず）に気付く。避難準備時間は15分弱。と同時に避難所（体育館）の過酷な映像が頭をよぎり、その後の避難所生活に耐えられるのか。どうしよう？

2. 3月11～12日のわが家について

- ・軽自動車2台を所有（パジェロミニ：力強いが燃費に難、ステラ：燃費は良いが力が弱い）。運転は得意ではない。2台ともガソリン残量半分・4輪駆動・冬タイヤ装着済。
- ・11日夜は余震続発、食器などの片付けで寝不足。
- ・12日はヘルメットを被り、瓦の片付けや共同水道の修理を3軒で行う。わが家は水が使えたので、おにぎりを3軒分つくった。
- ・12日、原発爆発の記者会見を見た。隣人が「一緒に逃げよう」と言ってくれたが、「ここで畑ができなくなったら逃げる」と言って断った。
- ・一方そのころに金沢の知人から「俺の所へ逃げて来い。悩んでいないですぐ決断して来い」との電話を受けていたが、返事を曖昧にしたままだった。その後電話は不通に。

【問1】避難所に行くか、逃げるか？ 即断を求められる

①とにかく避難バスに乗る、②自家用車で避難所へ、③金沢へ逃げる覚悟を決める
あなたならどうしますか？

⇒私たちは③金沢行きを決断。その理由…①避難所生活が多分難しい、②金沢からの電話

【問2】金沢へ逃げると決めたら、どの車で行くか？

- ・考えたことは、①渋滞するだろう、②ガソリン給油ができないかもしれない、③会津の峠道は凍っているだろう、積雪はどうか？

⇒力強さよりも燃費からステラを使うことにする。

【問3】渋滞・寒さを覚悟、何を積み込むか？

- ・車中泊を覚悟し、寝袋も積む。だが実印・土地家屋権利証などを持ち出せなかった（動顛^{どうてん}？紛失を恐れたか？記憶がない）。

⇒〔当時の記録による持ち物〕現金・カード・住所録／すぐ食べられる菓子・果物／水（あり合わせのペットボトル2ℓ×3本・ジャー）／下着・セーター・寝袋・ヘルメット・長靴／ティッシュ・ビニール袋・マジックインキ・セロテープ。（※歯ブラシ・タオル・トイレトーパー・防寒用新聞紙・使い捨てカイロ・救急箱などの記載なし＝積み込まず？）何故ヘルメット？問題多々。

- ・〔現時点での反省〕ステラにパジェロのガソリンを何故移さなかったのか、大いに後悔。避難道中の状況や、目的地に着いてからの数日～数週間の生活の想定が全くできていなかった。すぐに戻れると思っていた。今思うと、本当に甘かった。コンビニ閉鎖、ガソリンスタンドも閉鎖。高速道が使えないとは思わなかった。

【問4】会津若松で夜中の12時、ホテルに仮眠か、続走か？

- ・会津若松から先は山の中、安全優先ならここが最後の宿泊チャンス。一方放射能雲が流れて来ているかもしれない。見えない恐怖！どうする？

⇒会津若松に泊まることを決断。その根拠…^{ひばく}被曝の恐れより寝不足・疲労、慣れぬ夜道など⇒翌朝（13日）ホテル出発、夕方に知人宅着。この間即断&即断の連続であった。

《最後にひとこと》

1. 情報不足・エリートパニック・市長の采配と資質

- ・SPEEDIシミュレーション結果が公表されず、浪江町津島地区など無用の被曝。
- ・放射線量が高くなり、現地総司令部のオフサイトセンターを放棄。
- ・田村市は市長の決断で、20km圏外を含め都路地区全域に避難指示を出した（わが家は25km）。避難指示の有無がその後の支援に大きく影響することを後日実感。感謝。

2. そもそも避難できるのか

私たちは運にも助けられて避難できたが、以下が加わったら？⇒私には答えがありません。

- ・助けが必要な家族（自宅療養中の病人・高齢者・乳幼児・要介護者・ペット）がいたら…
- ・（仮に金沢で）真冬北西の強風、大雪、道路が寸断されていたら…
- ・新型コロナで避難所定員大幅削減、収容定員オーバーだったら…

3. でもやれることを

自身と家族を守るため、①ハード（非常持ち出し品の準備など）ばかりではなく、慌てない^{あわ}ためにも②ソフト（避難方法・避難先・家族集合場所など）を今すぐに考えておくことが大事。③ガソリンは半分になったら必ず給油。

4. 水戸地裁判決（2021/3/18）を、金沢と富山でも

- ・主文「東海第二原発の原子炉を運転してはならない」
- ・判決理由「避難計画と避難実行体制が整っているにはほど遠い状態であり、人格権侵害の具体的危険がある」